「釜石の奇跡」に学ぶ

石川県 PTA 連合会地区別研究指定発表会
記念講演【能登町共催】

【講師】**片田敏孝** 氏（群馬大学大学院教授）

【演題】
防災教育を通して考える地域づくり
～学校と保護者が果たす役割～

【日時】**11月11日(日) 13:40～15:40**
（PTA 発表会は 13:00 ～）

【場所】**内浦第 2 体育館**
※参加無料です。

東日本大震災当日、学校管理下にあった 2,921 人全員の児童生徒が生き残った岩手県釜石市。それは「奇跡」ではなく、防災教育を通じて子どもたちが生きる力、生き抜く力を育んだ結果でした。

釜石の事例から何を学ぶか―。

釜石市で 8 年間、防災教育に携わってきた片田敏孝教授からのメッセージを受け取ってください。

【かただ・としたか】
1960 年岐阜県生まれ。豊橋技術科学大学、同大学院博士課程修了。工学博士。東海総合研究所研究員、岐阜大学土木工学科助手、名古屋商科大学専任講師を経て群馬大学工学部建設工学科に。同科講師、助教授を経て 2005 年教授。2007 年群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン専攻教授、2010 年広域首都圏防災研究センター長。

ハード重視の都市防災からソフトを重視する災害社会工学を提唱。岩手県釜石市などで防災・危機管理アドバイザーを務める。

▲コンクリートミキサー車 6 台で原水を運搬（8/24）

▲矢波浄水場取水口付近のせき止め工事（8/24）

▲山田川（小垣付近）から仮設送水管を敷設（9/4）

▲仮設送水管は線路跡を通って寺田川へ（9/4）

▲寺田川へ 1 時間当たり 70㌧を放流（9/5）

【寺田川ダム】
農業用水と水道水の確保のため、平成 8 年から俎倉地内に建設され 19 年に完成した。総貯水量 460,000㌧。旧能都町地内約 3,400 世帯に水道水を供給する。

寺田川ダムの貯水量低下 18年ぶりの渇水

貯水量が 10%近くまで低下した寺田川ダム（8/27 撮影）

能登町長
持木一茂

本年度春からの小雨・空梅雨と夏場の日照りなどによりまして、寺田川ダムの貯水量が異常に低下しましたことで、町民の皆様にご心配とご不便をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

現在は、関係機関のご理解とご協力で山田川から仮設送水管による原水の送水が可能となったことや、矢波浄水場の取水口の改良、ダムの放水を一時中止したことなどによりダム貯水量も増えており、最悪の断水は避けられたものと考えております。

町としては、今回の渇水に至った原因を検証するとともに、渇水対策マニュアルを早急に作成して参りますので、今しばらく節水にご協力をいただきますようお願い申し上げます。

■町が行った渇水対策

	主な対策	備考
8/22	緊急課長会議	ダム貯水量 53,799㌧（11.7%）
8/24	「能登町渇水対策本部」設置 本部長：町長 矢波浄水場取水口のせき止め改良工事	コンクリートミキサー車で山田川から原水を運搬、 宅内告知器などで節水を呼びかけ
8/27	なごみ営業停止、うしつ荘外来客中止 仮設配管工事の発注	
8/28	仮設配管設置に向けて、のと鉄道・石川県等と許可申請など調整 矢波浄水場取水口の下流に水中ポンプ設置	内浦浄水場から浄水 4㌧を矢波浄水場に運搬
8/29	ダムの放流を止める	五十里浄水場から浄水 4㌧を矢波浄水場に運搬
8/31	仮設送水管材料の搬入・配置開始	能登町管工事協同組合 能登町建設業協会
9/4	仮設送水管の敷設完了・送水試験	送水管延長 L=4.4km
9/5	仮設送水管の送水開始	コンクリートミキサー車での原水運搬中止
9/8	なごみの営業とうしつ荘外来客（浴場）を再開	
9/24	「能登町渇水対策本部」を閉鎖	

まちの出来事

鵜川にわか祭
巨大な武者絵が町を練り歩く

海瀬神社（写真奥）に向かって突進するにわか

豊漁と海上安全を祈る鵜川のにわか祭は、8月25日夜から26日未明にかけてクライマックスを迎えました。

9基のにわかは、町中を練り歩いたあと、午前1時までに海瀬神社境内に集結しました。勇壮な武者絵の描かれた袖キリコは、海瀬神社の弁財天に婿入りしようと、社殿に向かって勢いよく突進を繰り返し、祭りの熱気は最高潮に達しました。

見卸しの浜で打ち上がる花火

能都ロータリークラブがカーブミラー清掃
交通事故防止の願いを込めて

能都ロータリークラブは9月13日、交通事故のない町づくりを目指そうと、宇出津地内のカーブミラーを清掃しました。同クラブが毎年実施する社会奉仕活動の一環で、今年は会員17人のほか役場職員、警察、商工会職員ら24人が参加して約40カ所のミラーを磨きました。清掃に参加した平島辰雄珠洲警察署能登庁舎長は「地道な活動が交通安全の意識を高め、死亡事故ゼロにつながっている」と話していました。

丁寧にカーブミラーを磨くロータリークラブ会員

クロダイの稚魚を放流する園児

釣具商組合がクロダイ稚魚放流
海への関心を育み里海の保全へ

県釣具商組合と日本釣振興会県支部が8月27日、クロダイの稚魚1万匹を小木港に放流しました。放流には小木保育園の年長児8人が参加。稚魚が入ったバケツを受け取り、「大きくなってね」などと声をかけながら放流しました。

組合の会費や店頭にある募金で毎年実施されているという放流。この日は能登町のほか県内3カ所で実施され、4万匹が放流されました。

首都大学東京・真脇遺跡で道具使用実験
道具から縄文の風景を探る

8月20日から29日にかけて、首都大学東京・考古学研究室の山田昌久教授らが真脇遺跡を訪れ、縄文・弥生・古墳時代の復元道具を用いた作業実験を行いました。実験は土掘りや草刈りの回数と時間を計測し、仕事の効率を数値化するものです。

土の質や道具によって作業効率も異るため、住居や景観に影響があったことが考えられ、今後の考古学の基礎データとしての活用が期待されています。

各時代の道具を使い、穴掘りに要した時間と回数を計測

御旅所に並んだ5基の御輿

柳田大祭
大キリコの灯りが境内を照らす

柳田の秋祭り「柳田大祭」は9月16日、白山神社で行われました。今年は4基のキリコが境内に並び、3基が約200㍍離れた御旅所まで御輿と共に渡御しました。御旅所では松明に火がともされ、花火が打ち上がって御輿を迎えました。

今年も金沢星稜大学の学生約50人が参加。男子学生はキリコの準備から片づけまでを、女子学生は民家の掃除や料理などを手伝いました。

宇出津小学校5年生が古代米稲刈り
古代米のおはぎもおいしかった

真脇遺跡縄文館前の田んぼで9月11日、宇出津小学校5年生27人が稲刈りを体験しました。この日刈り取った米は、赤米と呼ばれる古代米の一種。児童らは地元ボランティアの指導を受けながら、慣れない鎌を使って稲を刈り取り、はざに掛けました。

体験後に古代米おはぎを食べた児童。「初めてだったけどちゃんとできて良かった」「細かいことまで教えてもらってうれしかった」と感想を話していました。

稲刈りに汗を流す児童

社員の説明を受けながら「はんだ付け」に挑戦する児童

夏休みものづくり教室
ものづくりの楽しさを知る

8月23日、石川サンケン内浦工場（上）で町内の小学生を対象とした「ものづくり教室」が開かれ、25人が電子工作に挑戦しました。

児童らは、手回し充電式の電灯と暗くなると自動的に光る「ペットボタル」を製作しました。2個作られた「ペットボタル」のうち一つは、輪島市で冬に行われる「あぜのきらめき」で使用され、多くの人が訪れる名勝・白米千枚田を彩ります。

まちの出来事

第２回ふるさと未来塾

北野滋氏が炭素農業を紹介

バイオマス資源を活用して循環型社会を築く手法を学ぶ「ふるさと未来塾」の２回目は８月18日、のと海洋ふれあいセンターで行われました。

この日は、明和工業㈱の北野滋（しげる）社長が「バイオマスの利活用」と題し講演。炭を農業に使うことの効果や、そのことで空気中の炭酸ガスを土の中に固定して減らす「カーボンマイナス」の考え方を参加者に紹介しました。

炭素農業の効果を説明する北野さん

詩を怪談として紹介するサムさん（右）

能登国際交流サロン

ＡＬＴが母国の詩「大鴉」を紹介

本年度３回目の能登国際交流サロンは８月21日夜、役場能都庁舎で開かれました。

町の外国語指導助手（ＡＬＴ）として８月に着任したアメリカ出身のサミュエル・バートンさんが、夏に合わせた怪談をテーマに、アメリカの作家エドガー・アラン・ポーの詩「大鴉（おおがらす）」を紹介。主人公が深夜に、おおがらすに話しかける不思議な場面を英語で朗読し、教育委員会の室石主幹が解説を務めました。

商店街まつり歩行者天国

地域の元気を商店街から発信

宇出津新町通りの「商店街まつり歩行者天国」は、９月15日に開催されました。午後３時、保育所園児によるキリコ祭りで幕を開けたあと、宇出津小学校鼓笛隊、能登高校学校紹介、ごいた大会、宇出津ブラスバンズコンサートなど、多彩なイベントと模擬店などで商店街はにぎわいを見せました。

午後６時のセレモニーのあとは、岬ゆたか歌謡ショー、能登町婦人団体協議会の皆さんによる能登町音頭踊り流しなどが披露されました。

▲これまで数々のステージパフォーマンスを披露してきた「スマイルファクトリー」が、最後の出演

◀保育所園児によるキリコ祭り。手作りのキリコを担いで、商店街を元気いっぱい練り歩いた

能登町バイオマスツアー

自然に触れながら環境を学ぶ

間伐材やカヤなど地元のバイオマス資源について学ぶツアーが９月９日に開催されました。

参加者たちは間伐材を活用したまき作りのために山に入り、森林組合の説明を受けながら素材となる木を回収。組合能登支所でまき製造の見学、体験を行いました。この後「バイオエコ燃料能登」が運営するペレット製造工場を見学し、ペレットボイラーで沸かすお風呂の入浴体験も行われました。

まき製造のために間伐材を回収する参加者

今年は宇出津小学校の親子が参加

東海大学が今年も「親子理科教室」開催

重力や気体について学びました

東海大学による「親子理科教室」は８月19日、越坂にあるのと海洋ふれあいセンターで開かれました。

海洋学部の石井洋准教授ら３人が、宇出津小学校の児童ら親子連れ16人を指導。実験を通じて重力や気体の性質、骨の仕組みを紹介しました。昨年度まで東海大学で物理を教えていて、この春にＵターンしてきた宮下保さんが、自由落下する的に放物運動する矢が空中で衝突する実験を担当しました。

第25回ジャパンテント

国籍や言葉の壁を越えて交流

日本で学ぶ世界各国の留学生が石川の地に集う「ジャパンテント」は８月23日に開幕し、能登町には９人の留学生が26日まで滞在しました。

小間生公民館では、留学生たちが「みわ会」メンバーの指導で伝統の久田和紙によるうちわ作りに挑戦。25日はホストファミリーが用意したプログラムで交流を深めた後、鵜川の「にわか祭」に参加し、能登の夏祭りを満喫しました。

「にわか祭」では、魚町組に加わりにわかを担いだ

真脇遺跡の説明を受ける学生ら

産業能率大学経営学部がゼミ合宿

能登町の老舗から経営を学ぶ

産業能率大学（東京都）都留信行ゼミの学生ら25人が、９月３日から２泊３日の日程でゼミ合宿を行いました。学生らは、歴史遺産や商業資産などを調査し、昔から続いている営みから学んだことを経営学に取り入れようと能登を訪れました。

初日の９月３日には真脇遺跡縄文館や遺跡公園、古くから営まれている宇出津や松波の造り酒屋などを見学し情報収集を行いました。